

本科 0 期 1 月度

解答

Z 会東大進学教室

東大世界史



1章 古代オリエント

添削課題

解答例

統治理念としては、アッシリアとは異なり、軍国主義に基づく強制移住政策などは採用せず、被支配民の宗教や習慣を認める寛容な態度をとった。統治法は原則としてアッシリアの総督制を継承し、全国を22州に分けるとともに行政官としてサトラップを派遣、「王の目」「王の耳」と呼ばれた監察官が各州を巡察した。また、帝国内への命令伝達や軍隊の移動などに便宜をはかるため、道路網を整備、「王の道」を建設して駅伝制を採用した。このことは、官僚制の維持と税収確保のための商業活動の奨励策につながり、支配下のアラム人やフェニキア人を保護して陸上・海上交易の充実をはかり、独自の金貨・銀貨を鑄造して、貨幣経済の発展を促した。

(296字)

解説

《アケメネス朝》

論述問題としては、オーソドックスな説明問題であり、その内容・テーマともに受験生にとっては必須のものといえる。今後の学習の指針となるよう、設問の設定をしっかりと把握し、出題者の要求に合わせた答案の作成を心掛けてほしい。

解答に際しては指定語句の使用に十分留意してほしい。実際の講義においても各講師から指摘されているように、論述問題は出題者が求めている内容を、過不足なく説明してはじめて得点になるのであり、単純に、歴史的事実を指摘していればよいというものではないのである。ここでは「アケメネス朝におけるオリエント世界の統治」が主たる要求となっているので、いたずらにアケメネス朝の歴史を追い、指定語句の説明に終始した答案にならないように注意してほしい。以下に、設問の主たる要求から離れた指定語句の使い方と思われるものを例示しておく。

●強制移住政策

『強制移住政策であるバビロン捕囚を実施した新バビロニアを滅ぼして成立したアケメネス朝は…』

⇒史実としては正しいが、強制移住政策をアケメネス朝の統治とも関係させなければ意味がない。

●駅伝制

『…また、アケメネス朝は駅伝制を採用した。…』

⇒前後関係もなく、ただ行った事実だけを指摘しているものは、模擬試験の際には加点対象とされることも見受けられるが、実際の入試では採点対象にならない可能性が高いであろう。駅伝制と国家統治の関係を明確に述べなければ意味がないことを自覚してほしい。

また、指定語句に「アッシリア」を示していることの意味を考えてほしい。出題者は、アケメネス朝の統治法を述べる際には、アッシリアのオリエント統治と比較すべきであると判断していると推察される。実際、二つの帝国が実施したオリエント統治の違いを比較しつつ述べる

ものが、過去の大学入試でも多く出題されている。つまり被支配民族に対して、アッシリアは抑圧的であり、アケメネス朝は寛容であることなどが、両者の統治法を理解するうえで重要だからである。もちろん、相違だけではなく、復習の際には両者の統治法の類似点（つまり、アッシリアから継承したもの）にも注目してほしい（例題2を参照）。このような「比較」を問う形式の出題は論述問題でも多いが、その際に比較した結果として「差異」にばかり目がいて、「類似（や継承）」への配慮に欠けることがある。具体的に二つ（ないしはそれ以上）の制度や政策などの比較を学習する際には、「差異」とともに「類似」への意識を忘れず、答案作成においても検討材料として強く意識してほしい。

解答例は、一定の考え方によって導かれたものである。ゆえに前提（問題の読み取り方）が異なれば、千差万別の解答が出てくることはいうまでもない。解答例や別解を鵜呑みにしないように。あくまで解答にいたるプロセスの一例である。

2章 ポリス世界の成立

添削課題

解答例

ペリクレスの指導下で、成年男子市民が参加する民会を中心とした直接民主制が実現され、官職はくじによって市民に開かれていた。市民生活を支えるために奴隷が主に生産活動を、メトイコイが商業活動を担っていた。(99字)

解説

《アテネの政治・経済》

まずどこ（どの地域、国）が問われているのかを押さえること。この問題では当然アテネである。次にいつのことが問われているのかを把握する。これらは論述問題を解く時の最低限の準備である。そんなことはわかりきっている、と思うかもしれないが、今後問題を一読しただけでは何を書いていいのかわからない問題が続々と出てくる。そういうときのために問題をじっくり読む訓練を積んでほしい。

この問題ではパルテノン神殿が作られたとき、及び「紀元前 447 年から 432 年」という 2 つが「いつ」をあらわすヒントである。こういうところで年号をある程度覚えている人は、ペリクレス時代だとわかるだろう。世界史好きならばパルテノン神殿の造営をフェイディアスに要請したのがペリクレスというところでペリクレス時代だということに気づいたかもしれない。さらにもう 1 つヒントがある。アテネの「繁栄」というところである。ここからアテネの全盛期と言い換えてペリクレス時代と思ってもよい。

さて何が問われているのか？ それは当時の政治や経済である。こういうところを適当に受け流してペリクレスの時代について習ったことを書けば大丈夫だろう、と考えてはいけな。ちなみに次のような解答はどうだろう。

アテネの民主制が完成したこの時期はペリクレスが長期に渡って指導力を発揮したように、將軍職は重任が認められていた。経済面はデロス同盟の間で商業活動が盛んに行われた。(81字)

以上は事実に誤りはない。將軍職についてのことは調べれば載っているものである。事実があっているならば、これも別解として正しいのだろうか。ダメな解答だとするとどこがダメなのだろうか。よく考えてほしい。この解答で政治のことに経済のことに何の関連があるのか読んでいてわかるだろうか。これではいきあたりばったりで書いたものにすぎないと言われても反論は全くできない。このいきあたりばったりにならないこと、というのはこれからも気をつけてもらいたい。したがって、本問の解答例を作成する際には、直接民主制を支えた奴隷の経済活動というように、内容が一貫した方向性を保ったものになるよう注意を払いたい。

アテネの話を理解しておかないと、ローマや中世ヨーロッパの都市の話もわからなくなる。もちろんローマやヨーロッパ中世都市を学習するときにアテネのことももう一度深く理解して

くれればよいので、少々わからなくても世界史は前に進んでいくことを大事にしてほしいが、必ず過去を振り返りつつ前へ進んでいくことが重要である。

解答例は、一定の考え方によって導かれたものである。ゆえに前提（問題の読み取り方）が異なれば、千差万別の解答が出てくることはいうまでもない。解答例や別解を鵜呑みにしないように。あくまで解答にいたるプロセスの一例である。

3章 ポリス世界の終焉とヘレニズム世界

添削課題

解答例

東方においては、インドにおける仏教美術としてのガンダーラ美術に代表されるようにその地域の文化と融合した文化を生み出したが、ギリシア人の生活様式や思想を受け入れることはなく、後世への影響はほとんど見られなかった。西方ではローマ帝国における文化の主流を成し、ストア派哲学の流行に見られるように、キリスト教とならんで以後のヨーロッパ文明の基底を成した。(173字)

解説

《ヘレニズム文化の東西伝播の相違》

ヘレニズム世界のことを学習しているならば、まずはこの問題を読んだ後ですぐに教科書などを開いたりするのではなく、少しでも思い出そうとする努力をすること。どうしても思い出せないのなら見てもかまわない。この問題はそこから勝負だからだ。

教科書より、図表（資料集）のほうが情報量が豊富であろう。図版が多いとイメージもわいてくるはずである。問題文で「ギリシア文化の東西両方向への普及」とあるが、東西とは具体的にどこのことかしっかりと認識しているであろうか。「図表や教科書を見てヘレニズム文化のことを適当に書け」という問題ではないのだから、問題文を何度も読んで、仕入れた知識をはっきりと表現しなければならない。

ガンダーラ美術や中国の雲崗・竜門石窟、正倉院御物のことも見つけただろう。ローマではストア派やエピクロス派の哲学のことを書かなければならないことも同様である。ここからどうやるかだ。

「ギリシア文化は東方へは～。西方へは～」では全く解答になっていない。問われているのは「受容の仕方や影響の面での相違点」なのだから。当然、そこに気づいている人は教科書の中でなんとかそのことが書かれているであろう箇所を血眼になって探しているに違いない。しかし、多分そういうことは載っていないだろう。だから、そこは自分で表現しなければならないのだ。論述世界史は丸暗記では決して対応できない教科なのである。

世界史を学習していく中で、ある地域のことがばかりに目を向けて学習するのは邪道であることを必ず認識してもらいたい。入試においては、ある特定の地域に焦点を合わせた問題が出題されることがある。だからといって、その地域にだけ目を向けてしまうのは世界史に全くならないのである。地域や国を単位として歴史を学習することが世界史だと思ってはいけけない。時間と空間を越えてしっかりとイメージする面白さが世界史なのだということに気づいてもらえばこの問題に取り組んだ甲斐があるというものだ。

別解

東方においてはギリシア人のオリエン特征服を契機に普及し、ガンダーラ美術のように在来の

文化と融合した新しい文化も見られたが、最終的には在来文化に溶解してしまった。西方ではローマのギリシア征服を契機に普及し、ローマの支配層はギリシア文化を積極的に摂取したが模倣に終始したため、ギリシア文化はヨーロッパ文明の源流として保存されることになった。

(169 字)

解答例は、一定の考え方によって導かれたものである。ゆえに前提（問題の読み取り方）が異なれば、千差万別の解答が出てくることはいうまでもない。解答例や別解を鵜呑みにしないように。あくまで解答にいたるプロセスの一例である。



会員番号

氏 名